

# ちよつといひ話

## ～ 使命 ～

**使命感**、即ち責任を持って与えられた任務を遂行する。空海大師様が拝命された遣唐使もそうであったと思います。私が思いますには佛様に戴いたこの命を如何に生かすか？何に役立てるか？それが使命であると考えます。照憲皇太后の歌に「水は器にしたがいてその様を変えるなり・・・」とあった様な気がします。即ち、水は人であり、器は家庭なり、国である、と言う意味でしょう。ですから、器になるべき**環境母体(家庭生活)**をしっかりと整えなくては人間としての教育が出来ないと言う事でしょう。又、照憲皇太后の歌に「金剛石も磨かずば、<sup>たま</sup>珠の光はそわざらむ、人も学びて後にこそ、誠の徳はあらわるれ・・・」とあります。この歌の様に良き環境の下、子弟の教育をしてゆけば、光輝く徳育の結果が国民の為になり、事々が尊い形、敬で終わり、それが後に誠の陰徳となって蓄積するのであります。山に譬えますと山には必ず頂<sup>いただ</sup>き頂上があります。低い所に頂上はありません。言い換えれば、我々の生活の中で、戴くと言う言葉を使う場面が多々あります。この事は即ち、戴く事に因ってその行動が最高の結果を生み出してほしいと願うからであります。例えば、食事をする。食べるまえに、頂きますと言う、これは食する事に因って、血、肉となって我が身を健康に支えてほしい、と言う願いを込めるからです。**使命**を果たすためには色々な条件に恵まれてこそ可能になります。四国21番札所の空海大師様に教えて戴いた言葉に、「成せば成る様に成る」とは**基礎をシッカリ作る事**である、と言われました。**この身に戴ければ、運は開かれ、捨てれば捨てられる身になる**。これ即ち、平等なり。(心、失念する事無き様、発願心あるのみ。)

善入院油掛地藏尊